

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年12月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

緊急時の電源確保に向けた 電源車の接続訓練を実施しました

- 当所では、福島第一の全電源喪失事故以降、電源強化対策の一環として、電源車やガスタービン発電機車を高台（海拔約46m）に配備し、これらを的確に扱えるよう、計画的に訓練を実施しています。
- 本年12月に実施した電源車の訓練では、所員が高台からプラント付近まで電源車を運転し、ケーブルの引き出しから、接続、電源車の起動まで、一連の操作を実施しました。ケーブルの接続においては、感電防止等の安全確認を十分に行うなど、手順を確認しながら慎重に作業を進めました。
- 電源車は、有事の際に使用済燃料プールへの注水に必要な電力を供給するなど、初期対応において重要な役割を担います。引き続き訓練を重ね、作業の確実性などさらなる技能の向上を図っていきます。



プラント付近までの電源車の運転



電源車からのケーブル引き出し



ケーブルの接続



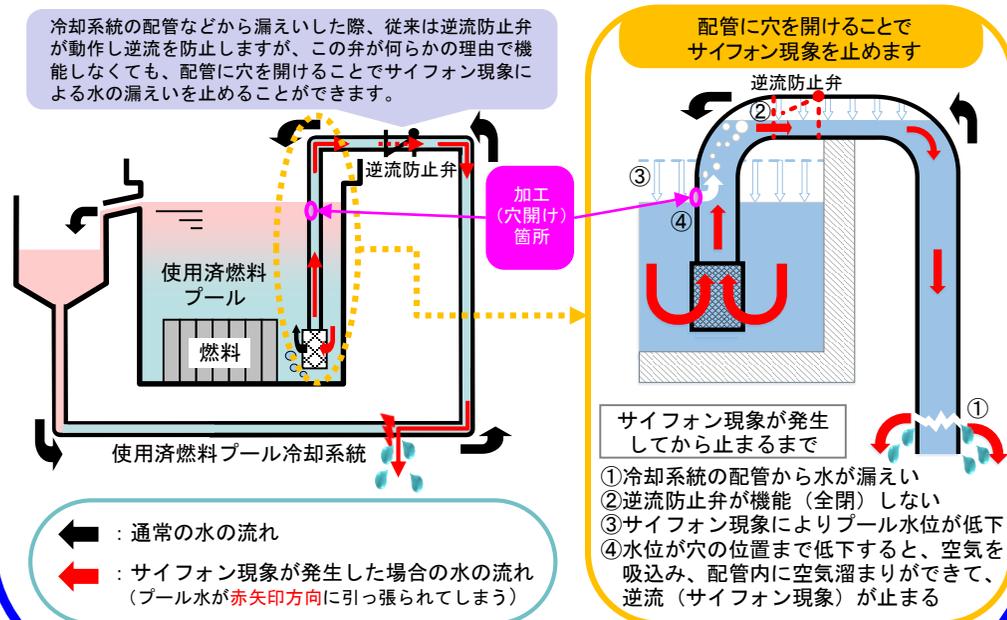
電源車起動後の電圧や周波数の調整

燃料の冷却に係わる設備の信頼性向上として 3号機使用済燃料プール冷却系の配管を加工します

- 当所では、すべての燃料（約1万體）は1～4号機の各使用済燃料プール内で一括管理し、安定した冷却を継続しています。
- 3号機では、燃料の冷却に係わる設備の信頼性向上を目的として、使用済燃料プール冷却系の配管において、サイフォン現象によるプール水位低下を防止するための加工（穴開け）を2016年1月に行うこととしています。
- サイフォン現象とは、水槽にホースを入れ、もう片方を水面より低い位置へ置いた時に、水槽の水が流出し続ける現象です。従来でも逆流を防ぐ弁が機能し水の流出を防ぐことができますが、仮にこの弁が機能しなかったことを想定しても、この穴により、水の漏えいを止めることができます。
- 今後、1、2、4号機についても、同様な穴開け作業を行っていきます。

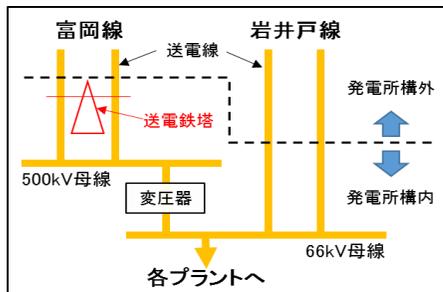
○使用済燃料プールにおけるサイフォン現象のイメージ

冷却システムの配管などから漏えいした際、従来は逆流防止弁が動作し逆流を防止しますが、この弁が何らかの理由で機能しなくても、配管に穴を開けることでサイフォン現象による水の漏えいを止めることができます。



外部電源を確保するための 送電設備のメンテナンスをしています

- 当所は現在、安定した燃料冷却を継続していますが、これらの設備を動かすために必要な電力は、発電所の外部から供給されています。
- 今回、この外部電源のうち、当所構内に設置している送電設備の一部について、同時にすべての電力供給が停止しないよう、部分的に停電させ、送電線の点検を行いました。
- 送電線の点検箇所は、地上約65mで足場もなく、しっかりと保護具を身に付けているとはいえ、一瞬たりとも気が抜けない作業環境ですが、作業は一つひとつ、着実に、安全を確認しながら慎重に進められました。
- 送電設備のメンテナンスは、安定して外部電源を確保していくための重要な作業の一つです。



構内配電網 (イメージ)



500kV開閉所外観



送電鉄塔

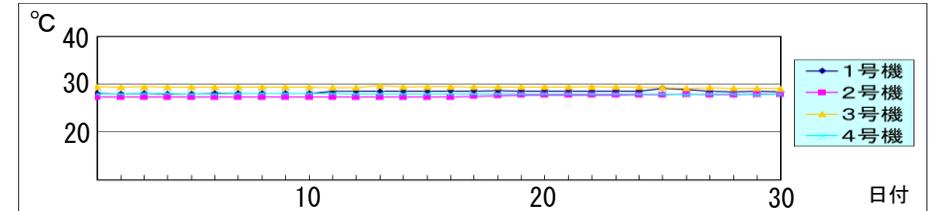


送電線点検作業

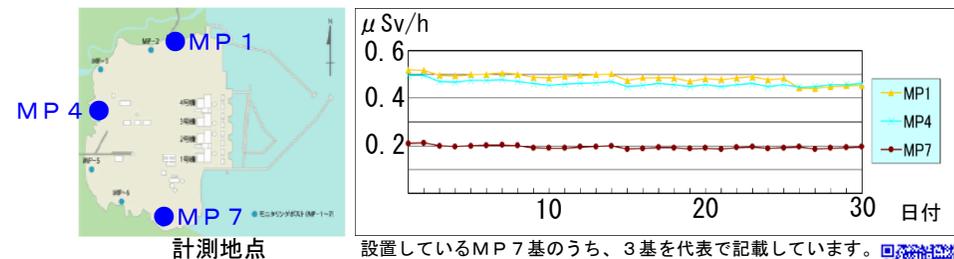
燃料の冷却状況 (11月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



モニタリングポスト (MP) の計測状況 (11月分)



さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

危険を予知し共有することで、安全意識の向上に努めています

- 現場で起こりうる災害を未然に防止することを目的として、本年12月8～10日に危険予知講習会を開催し、所員約100名が参加しました。
- 参加者は、実際に作業現場で安全指導に携わっていた協力企業講師による講義に熱心に聞き入っていました。講義では、作業に潜む危険箇所の抽出、予知、対策を導き出す手法を学び、最後は全員で指差呼称をして、導き出した重要ポイントについて認識を合わせました。
- 今後も講習会を通して、所員一人ひとりが危険を予知する力を高めながら、継続して安全意識の向上に努めていきます。

